

**日立製作所とマイクロソフト コーポレーションが Windows 2000 をベースとした
企業向けソリューションの開発・提供でグローバルパートナーとして提携**

株式会社日立製作所（本社：東京都千代田区 以下日立 取締役社長 庄山悦彦）とマイクロソフト コーポレーション（Microsoft Corporation、本社：米国ワシントン州レッドモンド、社長兼最高経営責任者：スティーブ パルマー、以下：マイクロソフト）は、本日広範な顧客企業のニーズへの対応を目的として、合弁会社の設立を含む包括的な提携を行うことで合意しました。

今回の提携により、両社は、共同でマイクロソフトの Microsoft Windows 2000 をベースとした企業向けプラットフォーム¹（Microsoft Windows DNA）と日立が豊富な実績を持つ幅広いソリューションを統合し、あらゆる規模の顧客に対して、オープンシステムを通じ、新たなビジネスバリューを提供していきます。これにより、スケーラブルで信頼性の高いソリューションを優れたコストパフォーマンスで提供できるようになります。

なお、本提携に基づき、両社から合弁会社の役員を派遣する予定であり、2000年10月の設立を予定しています。

両社の包括提携における主要項目は以下に挙げるとおりです。

マイクロソフトの企業向けプラットフォーム（Microsoft Windows DNA）をベースとしたソリューションを開発し提供

中小規模から大規模企業までの広範な市場に向けて、Windows ベースのソリューションを提供することにより、3年後に4,000億円のオープンプラットフォームビジネスを実現

ソリューション事業の核となる合弁会社を設立し、Microsoft Windows DNA ベースのソリューション共通基盤の開発や、コンサルティング/ハイアベイラビリティサポートサービスの提供等を共同で行う

合弁会社及び日立グループの約10,000名のシステム・エンジニア等がマイクロソフトテクノロジーを習得

マイクロソフトソリューションセンターを日立社内の全国10拠点に設置

日立の既存の520ミドルウェア製品及び50種類の業種アプリケーションを順次 Windows 2000 に対応

日本での協業をベースに将来の海外展開を検討

¹ Microsoft Windows 2000、および Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server、Microsoft BizTalk Server を含む Windows 2000 上で稼動するサーバ製品群と Microsoft COM+などを含むマイクロソフトテクノロジー

インターネット技術の進展に伴い、企業間のグローバルな競争は激しさを増し、各企業のビジネスモデルは急速な再編成を迫られています。こうした中、各企業では、これまでに蓄積した膨大な情報を、ネットワークを使って有機的に結合し、様々な角度から分析を行うことにより、より高度で迅速な事業戦略の検討が行われつつあり、企業の情報システムには、一層高い信頼性が求められています。

さらに、こうしたシステムを従来以上に低コストで構築したいというニーズから、オープンプラットフォームをベースとしたシステム構築のニーズも高く、特に Windows ベースの IT サービスは 2003 年までに年平均 20.1%* という高い成長率が予想されています。(*出典:日本ガートナーグループ データクエスト 2000/6 速報値 GG2000-MS-004)

日立とマイクロソフトは、こうした市場展望に基づき、両社が保有する製品/技術/人材を評価した結果、これを融合することによりさまざまな業種・規模のユーザーに対し、ベストソリューションを提供できるものと確信し、今回の包括提携に至りました。

両社は、2000 年 10 月に設立される合弁会社とともにマイクロソフトの企業向けソリューションプラットフォームの信頼性を、日立がこれまで蓄積してきた高信頼化・高性能化技術でさらに高めるとともに、日立及びマイクロソフトの豊富なミドルウェアや著名な ISV ソフトとの組み合わせでオープンシステムのための最適なソリューションを開発し提供していきます。さらに、日立の高性能 PC サーバやディスクアレイシステムと組み合わせた SAN(Storage Area Network)向けセットモデルの共同開発も行う予定です。同時に日立の既存の 520 ミドルウェア製品及び 50 種類の業種アプリケーションを順次 Windows 2000 に対応させていきます。

合弁会社は、日立とマイクロソフトから供給されるハード/ソフト/システムの製品・技術と派遣されるエンジニア/営業等の人材をベースに業務コンサルティングから、システムインテグレーション、ソリューション共通基盤の開発、サポートサービス、ASP/Web ホスティング等のビジネスを展開し、インターネット時代における企業経営を強力に支援していきます。

合弁会社は、本年 10 月に約 300 名で日本市場を中心に事業を開始し、2002 年 3 月末には約 1,000 名規模の陣容に拡大していく計画です。また、両社は、本提携により提供されるソリューション/サービスを海外市場にも適用し、ビジネスのグローバル化を目指します。

なお、合弁会社を含む日立グループの約 10,000 名のエンジニアは、マイクロソフトの企業向けプラットフォームのトレーニングを受けることになります。そしてこのエンジニアは、マイクロソフト認定技術資格 (MCSE²、MCSD³を含む MCP⁴資格) の取得を目指します。また、日立社内の、全国 10 拠点にマイクロソフトソリューションセンターを設立し、そこを通じて顧客に対してソリューションを体験できる場を提供していく予定です。

² Microsoft Certified System Engineer (マイクロソフト認定システムエンジニア)

³ Microsoft Certified Solution Developer (マイクロソフト認定ソリューションディベロッパー)

⁴ Microsoft Certified Professionals (マイクロソフト認定技術者)

本件に関する関係者のコメントは以下の通りです。

株式会社日立製作所 取締役社長 庄山悦彦

「日立はいま中期経営計画『i.e.Hitachi』プランに基づき、『ベスト・ソリューション・パートナー』への変革を進めています。今回の包括的提携は、オープンプラットフォームとして高い評価を確立している Windows をベースに、お客様に、より安全で信頼性の高いソリューションを提供していくために、あらゆるシステムの構築における日立の実績と、マイクロソフトの技術基盤が融合することに非常に大きな意義があります。当面日本市場からのスタートですが、1日も早くグローバル市場への展開を進めたいと考えています。」

マイクロソフトコーポレーション 会長兼チーフソフトウェアアーキテクト ビル ゲイツ

「Windows 2000 以降登場するマイクロソフトプラットフォームは、エンタープライズコンピューティングの世界を根底から変えることでしょう。マイクロソフトとしては、日本企業初のグローバルパートナーである日立製作所との提携を通じ、当社の卓越した技術力と日立製作所の高い技術知識と信頼性が融合することにより、マイクロソフトのソリューションプラットフォームがあらゆる規模の顧客企業に対して大きなベネフィットを提供できるようになると確信しています。」

以上